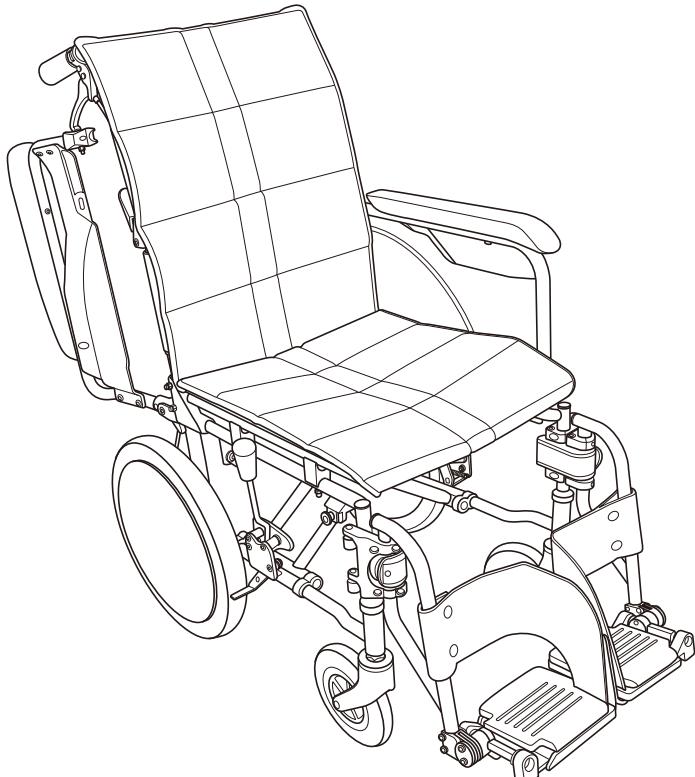


より快適に車いすをお使いいただくために

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。



※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

目次

使用目的・特徴	2
はじめにご確認ください	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	6
ブレーキのかけかた	6
車いすの開きかた／たたみかた	6
シートの取り付け／取り外し	8
乗り降りのしかた	9
アームサポートの跳ね上げ	10
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	11
各部の調節のしかた	12
バックサポート(背シート)の張り具合調節	12
フットサポートの高さ調節	12
フットサポートの角度調節	12
使用上のご注意	13
困った時には	15
仕様	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。
特殊な身体保持具、バックサポート(背)・座位の角度調整機構等がなく、介助者が操作する介助用標準型車いすです。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべてはいっていることを確認してください。

- | | | |
|--------|-----------|-----------------------------------|
| ・車いす本体 | ・取扱説明書 | ・工具(スパナ 2ヶ 六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1ヶ) |
| ・保証書 | ・アウター背シート | ・アウター座シート |
| | | ・レッグサポート |

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

△ 危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。

△ 警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。

△ 注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

△ 危険



スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに
急カーブを走行したり、
急ブレーキをかけたりすると、
転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



急な下り坂で介助するときは、後ろ向きに
ゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキ
レバーを使いスピードを落としてください。



乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪(主輪)が浮き上がり、転倒する恐れがあります。



エスカレーター(車いす対応エスカレーター除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)でのご使用は絶対に行わないでください。
転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。



自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。



車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

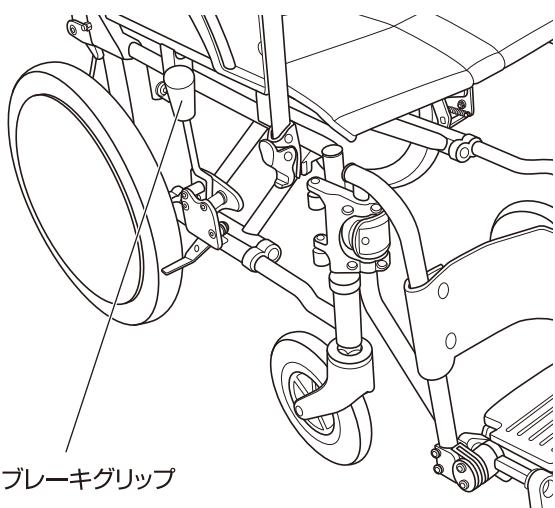
! 警告

! 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。

ブレーキがかからっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキグリップが止まる位置まで確実に操作してください。

! 乗り降りの際にはブレーキグリップに体重をかけないでください。

グリップが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



! 制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。

転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

! 前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前に転倒する恐れがあります。

! アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。

使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

! 車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。

製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

! 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。

車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

! 使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。

ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

! 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

! 押手グリップ、本体フレームおよび背ポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。

過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

! フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

! 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。

転倒などの事故につながる恐れがあります。

! アームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。

使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

! フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。

事故やけがにつながる恐れがあります。

! アームサポート、アームサポートフレーム、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

⚠ 注意

🚫 この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

❗ 最大体重（積載物含む）は100kgです。体重制限を守って使用してください。

🚫 使用者が乗車中は、背折れの操作は絶対に行わないでください。

背折れのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。

❗ 背折れジョイント、アームサポート、フット・レッグサポートなどの可動部に指や身体をはさまないよう注意してください。

❗ 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。

事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 使用する前に駆動輪（主輪）・キャスター・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、緩んでいるときは増し締めをしてください。

ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

**🚫 フットサポートを足で上げないでください。
けがをする恐れがあります。**

🚫 フットサポートの下には足を入れないでください。

足を地面でこすったり、フットサポートやキャスターなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

**❗ 段差乗り越え時等でキャスターを上げる際は必ず押手グリップを手前に引くと同時に足元のティッピングレバーを押し出して下さい。
押手グリップのみに無理な力がかかるとフレームの破損につながります。（P.14参照）**

🚫 車いすをたたむときや開くときは、シートパイプを握らないでください。

手をはさみ危険です。



❗ フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

❗ アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。

アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

❗ 走行中、足がフットサポートから落ちないようしてください。

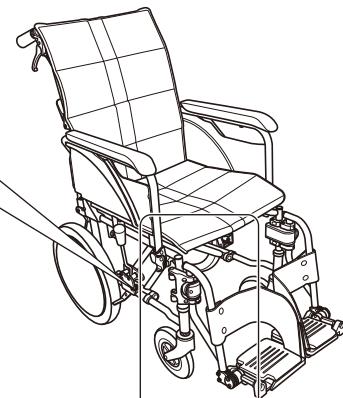
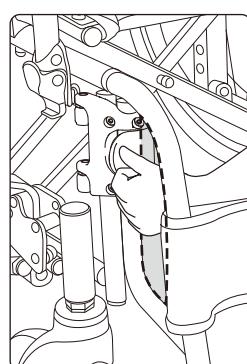
**🚫 走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。**

🚫 暖房器具に車いすを近づけないでください。

タイヤの表面が溶けたり、木材部品の反り、ひび割れ、ゆがみなど破損する場合があります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。



**❗ フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。
けがをする恐れがあります。**



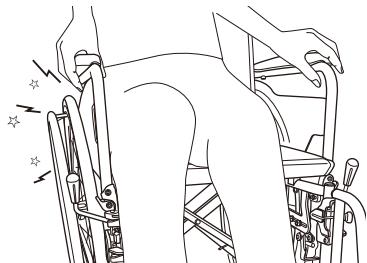
**❗ 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。
車いすの破損や故障の原因となります。**

⚠ 注意



使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。

車いすの破損や故障の原因となります。

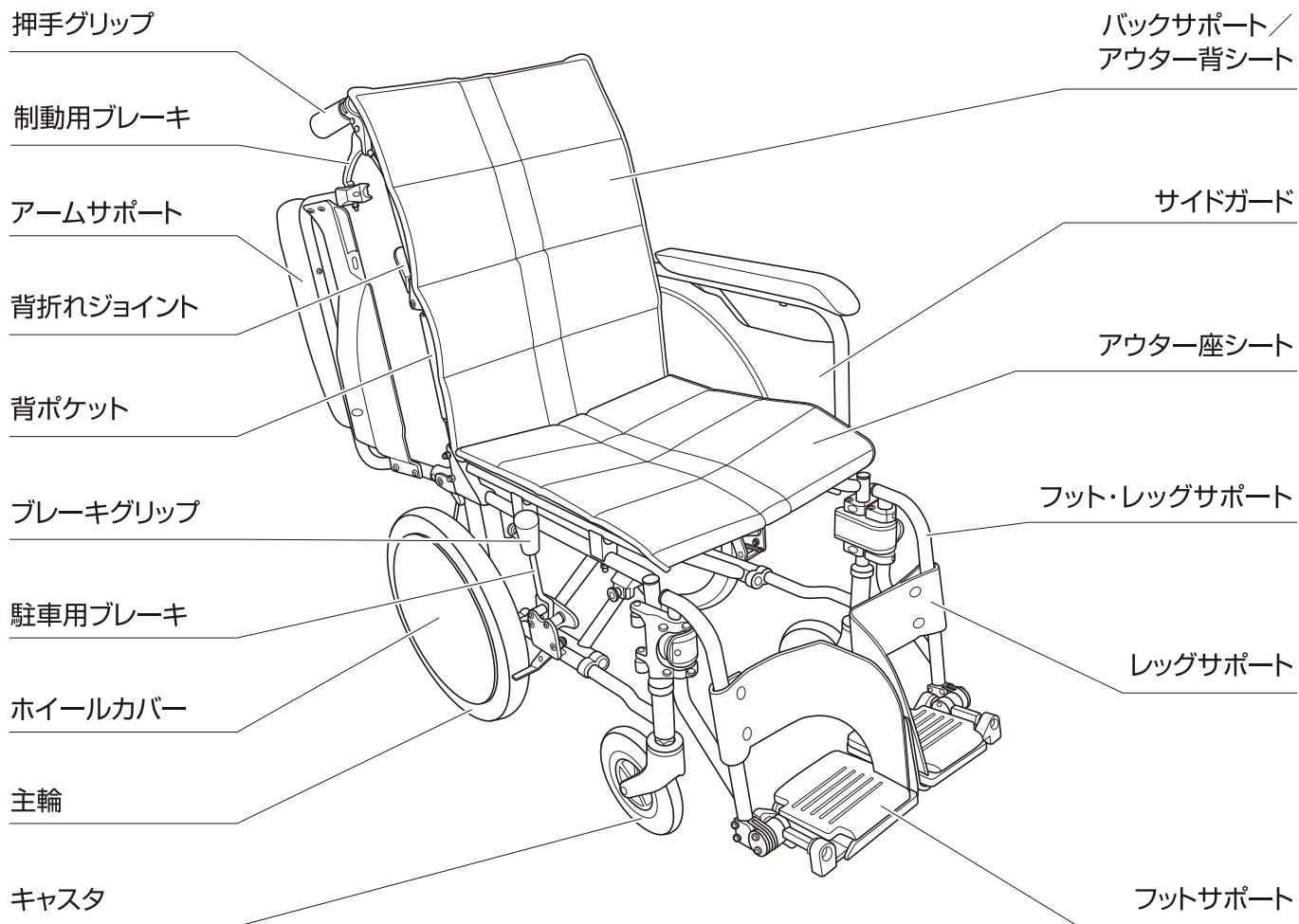


シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。



車輪を他のサイズや種類に変更しないでください。

各部のなまえ



使いかた

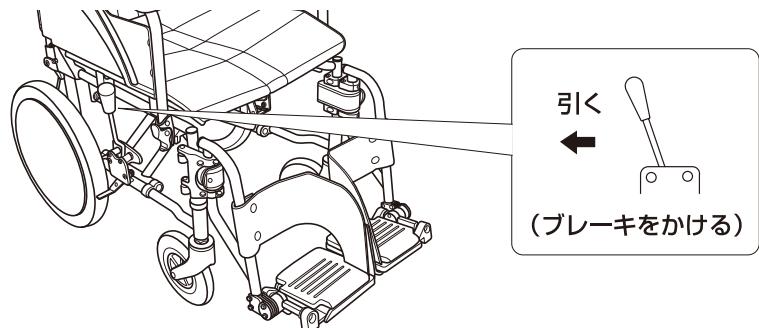
ブレーキのかけかた

⚠ 警告	<ul style="list-style-type: none">乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかるといないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキグリップが止まる位置まで確実に操作してください。乗り降りの際にはブレーキグリップに体重をかけないでください。グリップが破損・変形し、転倒する恐れがあります。車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。
------	--

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右のブレーキグリップを後方に引いてかけます。

ブレーキグリップを前方に戻すと解除されます。



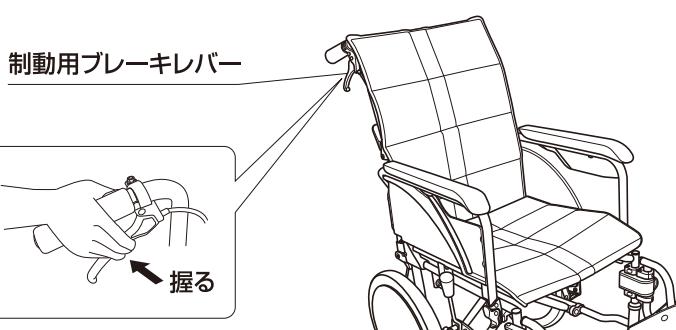
● 制動用ブレーキのかけかた

⚠ 危険	<ul style="list-style-type: none">スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。 また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。
------	--

⚠ 警告	制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。 転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
------	---

⚠ 注意	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（交換の目安：1年に1度）
------	---

介助者が、左右の押手グリップ下側の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



車いすの開きかた／たたみかた

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none">シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
------	---

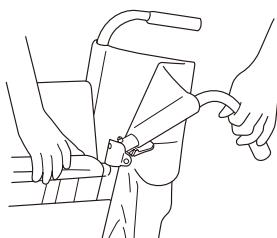
● 開きかた

1 ブレーキグリップを引いて、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

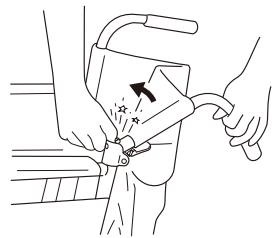
2 押手グリップを両側とも上げます。

* 背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。

* このとき、背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。



押手グリップを
両側とも上げる



手をはさむ
おそれあり

3 押手グリップを持って、軽く左右に開きます。

シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりととはまっていることを確認してください。

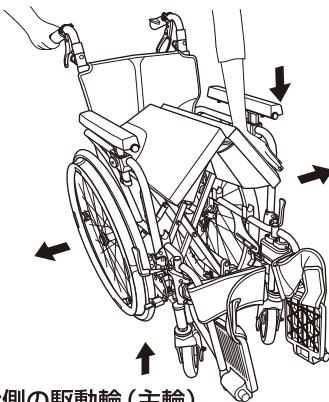
* しっかりはまっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。押す時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。

シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

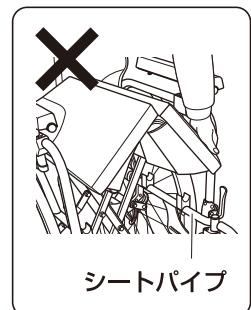
4 片側の駆動輪（主輪）を少し浮かせて、その状態を保ちます。

5 駆動輪（主輪）を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。

* シートパイプを握らないでください。

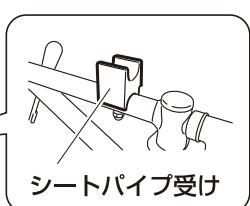
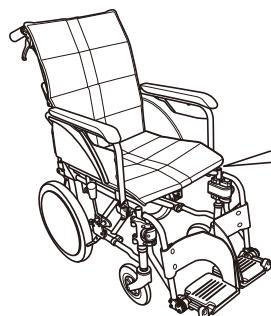


片側の駆動輪（主輪）
を浮かせる



シートパイプ

6 インナー背シートのフラップ部をインナー座シート裏面の面ファスナーと貼り合わせ整えます。

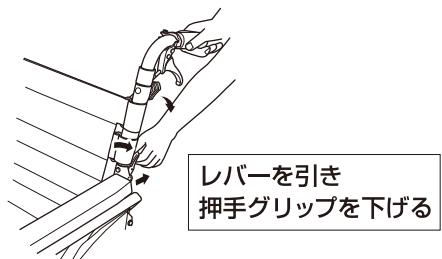


シートパイプ受け

● たたみかた

1 ブレーキグリップを引いて、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 図のように、押手グリップを両側とも下げます。



レバーを引き
押手グリップを下げる

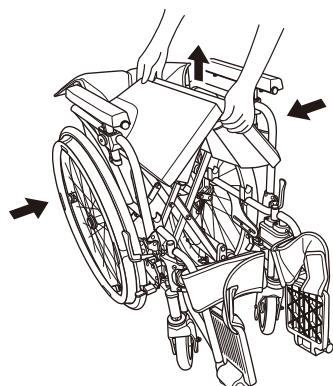
3 フットサポートを両側とも上げます。

4 座のシートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。

5 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座のシートを折りたたみます。

* アウター背シート、アウター座シートを取り外して折りたたむとより小さくたたむことができます。

* 車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。



シートの取り付け/取り外し

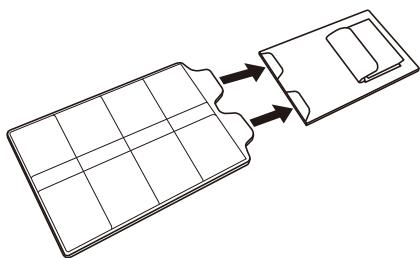
△注意

- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● 取り付けかた

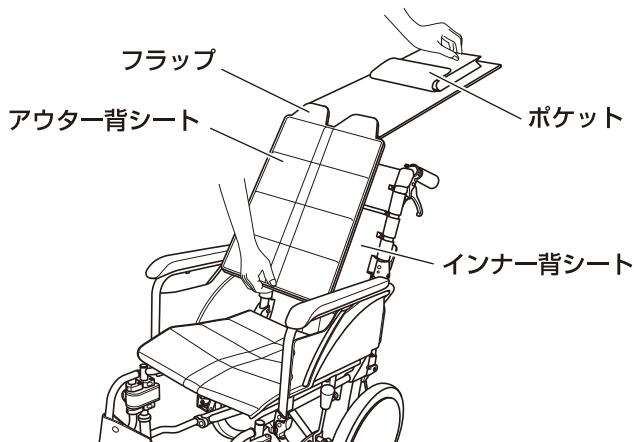
1 アウター背シートのフラップにポケット部を貼り付けます。

(梱包時は貼り付けられた状態となっております。)

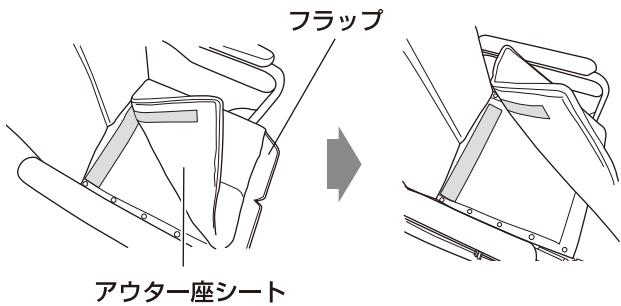


2 アウター背シートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせます。

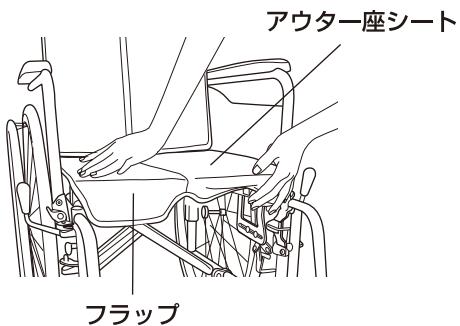
アウター背シートとインナー背シートの面ファスナーを貼り合わせます。



3 アウター座シートのフラップを前側にし、車いす本体のインナー座シート表面の面ファスナーと貼り合わせます。



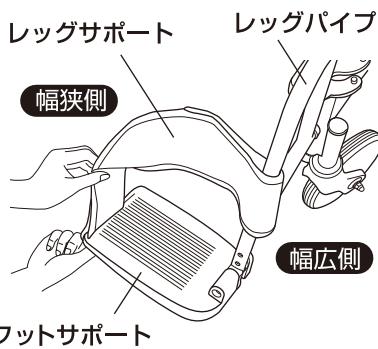
4 フラップ部を折り曲げインナー座シート裏面の面ファスナーと貼り合わせます。



5 レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻きつけ、ボタンを留めます。

6 レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の穴に差し込みます。

7 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。



8 反対側も同様の作業を行います。

● 取り外しかた

「取り付けかた」と逆の要領で行ってください。

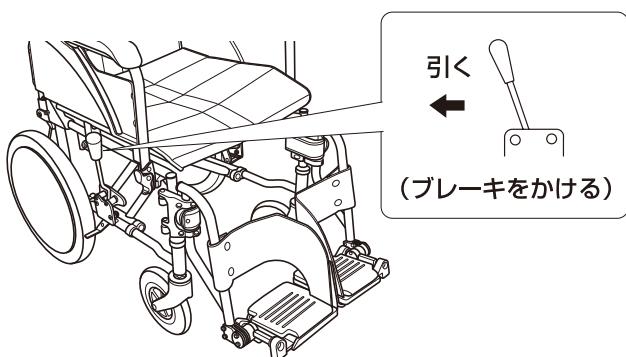
乗り降りのしかた

△警告

- ・乗り降り時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。
転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

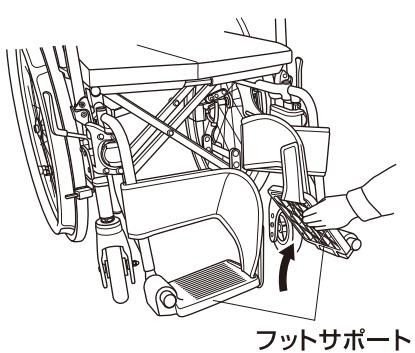
● 乗りかた

- 1** ブレーキグリップを引いて、両輪の駐車用ブレーキをかけます。



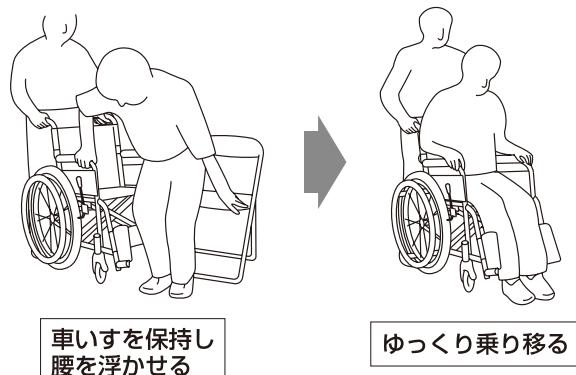
- 2** フットサポートを両側とも上げます。

- * フットサポートの上には乗らないでください。
転倒し、けがをする恐れがあります。
- * 上げたフットサポートに足が当たらないよう
注意してください。
けがをする恐れがあります。



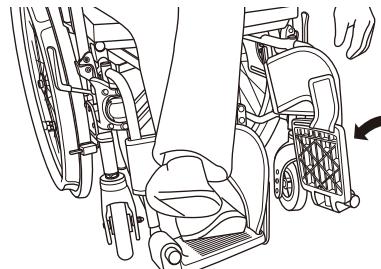
- 3** 必要に応じて、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」(P.11参照)や、「アームサポートの跳ね上げ」(P.10参照)を行います。

- 4** 車いすをしっかりと保持しながら、
ゆっくり乗り移ります。



- 5** 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」や、「アームサポートフレームの跳ね上げ」を行っていた場合は、元に戻します。

- 6** フットサポートを下ろして両足を乗せます。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

アームサポートの跳ね上げ

アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。
ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行えます。

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。 アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
------	--

● 跳ね上げかた

ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。

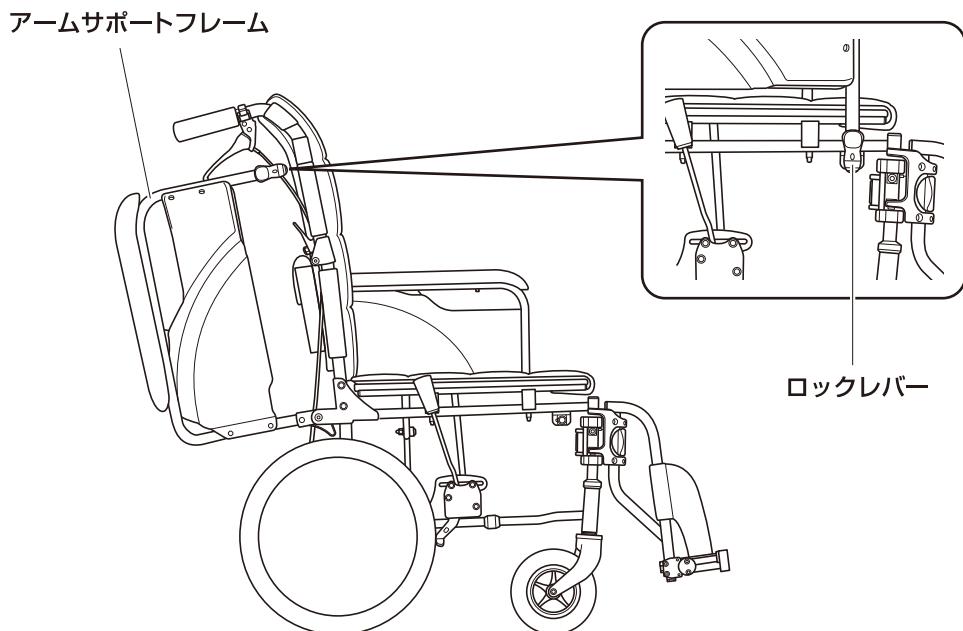
* アームサポートフレームを上げた状態で、アームサポートフレームに力を加えないでください。
フレームが変形し故障の原因となります。

● 戻しかた

⚠ 注意 アームサポートフレームを下ろすときは、身体をはさまないように注意してください。

アームサポートフレームを下ろし、完全にロックされたことを確認します。

* アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレームが完全にロックされていることを確認してください。



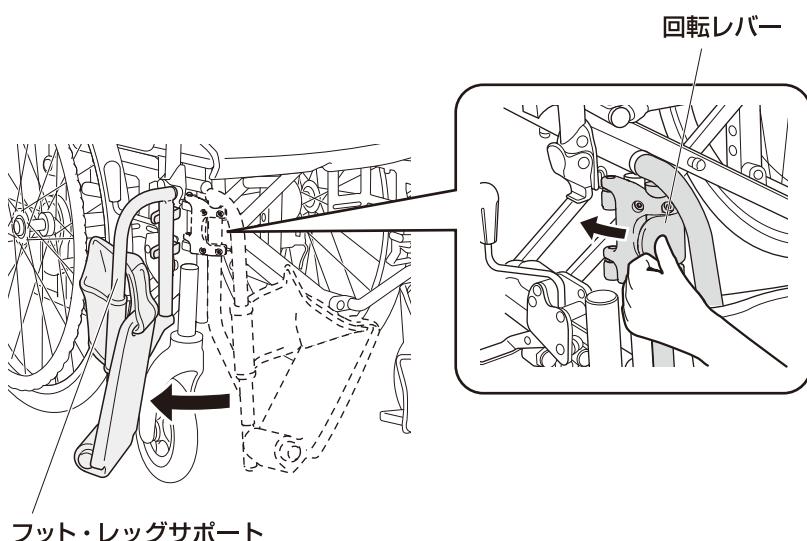
フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉(スイングアウト)することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

<p>△警告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・ フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 ロックが外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・ 開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 けがをする恐れがあります。 ・ 乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



● 閉じかた

△注意

フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

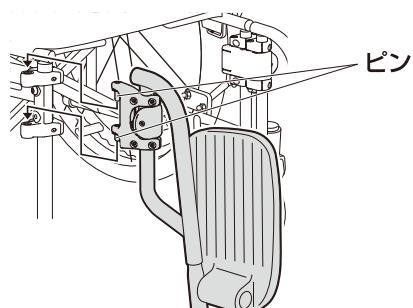
フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

1 車体フレーム側の回転軸穴にフット・レッグサポート側のピンを合わせて垂直に上からはめ込みます。



2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

* フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

* フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

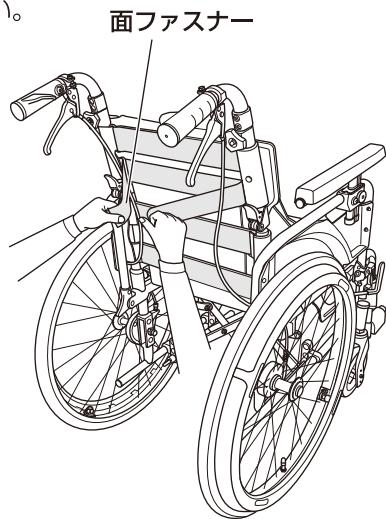
各部の調節のしかた

バックサポート(背シート)の張り具合調節

△注意 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

*バックサポートの張り具合を隨時チェックし、必要に応じて調節してください。

- 1 ブレーキグリップを引いて、両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 ポケット部をめくり上げます。
- 3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。
*手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。
- 4 インナー背シートのラップ部をインナーシート裏面の面ファスナーと貼り合わせ整えます。
- 5 ポケット部を元に戻します。



フットサポートの高さ調節

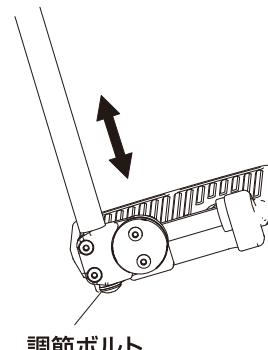
△注意 フットサポートは、地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

使用する工具：13mmスパナ（締め付けトルク：8.0～12.0N・m）

- 1 ブレーキグリップを引いて、両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フットサポート裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

*反対側も同様に作業を行ってください。
*フットサポートが回転せず、しっかりと固定されていることを確認してください。

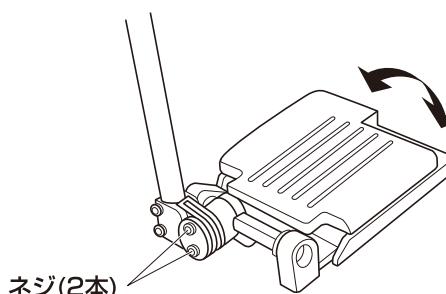


フットサポートの角度調節

使用する工具：4mm六角レンチ（締め付けトルク：3.0～3.5N・m）

- 1 ブレーキグリップを引いて、両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フットサポート側面のネジ（2本）をゆるめます。
- 3 フットサポート角度を希望の位置に合わせます。
- 4 手順2でゆるめたネジ（2本）を締め付けて固定します。

*反対側も同様に作業を行ってください。
*フットサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。

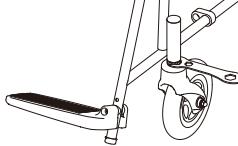


使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

△警告	キャスターの旋回軸やキャスター・駆動輪(主輪)・ブレーキ等は定期的に点検してください。 ゆるんでいるときは増し締めをしてください。	
------------	--	---

- 車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、暖房機の風や直射日光のある場所には放置しないでください。
- 使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
(地上より50mm以上あげてください。)

● 消耗品、交換部品の確認

△注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
------------	---

- それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。
- ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けますと、タイヤ内部に水分が浸食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪(主輪)	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスター	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

- シートが汚れた場合は、すぐに中性洗剤をお湯で薄めて固く絞った布で表面をたたくようにして落とし、固く絞った蒸した布で洗剤分を拭き取り、乾いた布で乾拭きしてください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- シート部分は異質素材と接触すると色移りが生じる場合があります。直接の壁などへの接触は避けてください。
- 素肌や衣服が濡れたままでの使用は避けてください。シート部分のシミ、汚れや劣化の原因になります。

● アームサポート、グリップ、フットサポート等の木材部品のお手入れ

- ふだんのお手入れは、柔らかい乾いた布で乾拭きしてください。水分をしっかり切った布でもかまいませんが、乾拭きをして水分が残らないようにしてください。ワックスや化学ぞうきん、また消しゴムなどの使用も避けてください。ツヤが上がりたりもりが出たりしてしまいます。
- 油汚れには、中性洗剤をお湯で100倍程度に薄めて固く絞った布で拭き取ってください。その後乾拭きをしてください。
- 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- 押し手グリップやアームサポート取り付け部など木材部品の取り付け部が緩んできたらネジの増し締めをしてください。(ネジが緩んだままの使用は破損の原因となります。)
- 木材部品は湿度が高いと膨張し、低いと収縮します。極端に湿度の高いところや乾燥する場所、高温の場所でのご使用は不具合の原因となります。ご注意ください。
- 木材部品はホルムアルデヒド放散量の少ないF☆☆☆☆のものを使用していますが、肌の弱い方はまれにアレルギー症状をおこす場合がございます。その際は室内及び車いすとともに換気を充分に行ってください。
- まれに虫害が発生することがあります。その場合にはすぐに殺虫もしくは防虫処理を行ってください。

使用上のご注意

● サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

△注意

- ・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。
- ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干してください。

● タイヤのお手入れ

・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● 保管・収納について

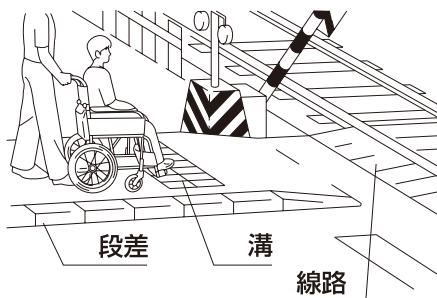
- ・収納スペースが少ないとときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・鋸やタイヤのパンク、木材部品の不具合を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光や暖房機の風や熱、水のある場所には保管しないでください。

△注意

折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの木材部分のみを持たないでください。
破損する恐れがあります。

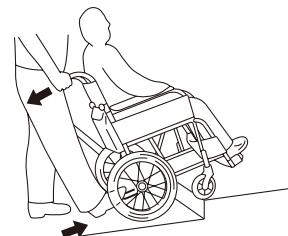
走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャスターのはさみ込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。



段の上がりかた

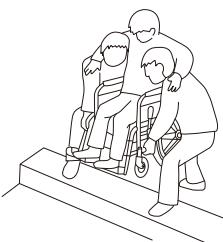
- 足元のティッピングバーを押し出し、押手グリップを手前に引くようにして、キャスターを段の上にあげます。
- 駆動輪（主輪）を段に突き当て、車いすを押しながら押手グリップを持ち上げます。
*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。



車いすに乗ったまま持ち上げる場合

△警告

持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。
アームサポート、アームサポートフレーム、背折れジョイント、
フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。



車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、
フレーム下部を両側からしっかりと持ち上げるようにしてください。

段の下りかた

押手グリップとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

- *無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
- *段差のあるところを下るとときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。
車いすの破損や故障の原因となります。

困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

症 状	確 認 点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へキャスターが流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 〈自走の場合〉 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 〈介助者が押す場合〉 傾斜面の低い側に当たる押手グリップに、より力を入れて押してください。
	キャスターの回転に左右差がありませんか。 キャスター軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	キャスター・駆動輪（主輪）の計4輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが駆動輪（主輪）にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛けたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がする。	本体や駆動輪（主輪）とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪（主輪）など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩耗音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポート（背シート）の張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポート（背シート）の張り具合を調整してください。

仕様

単位mm

	機種名
	Woody200
フレーム材質	アルミ合金
シート材質	ポリエステル、ナイロン、PVC、本革
アームサポート	ウォルナット
サイドガード	樹脂
押手グリップ／ブレーキグリップ	ウォルナット
バックサポート	テンション調整
背折れ	あり レバー式
フット・レッグサポートタイプ	開閉式（スイングアウト）
フットサポート	ポスト式 ウォルナット
キャスター	6"ソフトフォーミングマルチ
タイヤ	ハイポリマータイヤ
ホイールカバー	ウォルナット突板合板
制動用ブレーキ	あり サーボブレーキ
ハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	立体大

測定項目	機種名
駆動輪(主輪)径 (inch)	14PU(黒)
キャスター径 (inch)	6
前座高	435
後座高	410
シート奥行	400
シート幅	400 (360)(※1)
バックサポート高	500
フットサポート・シート間距離	340~400
アームサポート高	220
全高	885
全幅	485 (アームサポート 外々)
全長	1000
折りたたみ全高	680
折りたたみ全幅	280
折りたたみ全長	640 (870)(※2)
重量	15.7

(※1) ()内はインナー座シート寸法

(※2) ()内はフット・レッグサポート取付け時の寸法

静的安定性試験方法 (弊社ではJIS T9201 10.1.2a方法によって試験を行っています。)

キャスターが交換可能な場合、推奨するキャスター径は上記キャスター径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ (UNF1/2-20山) 仕様になります。

アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保証

- 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- 保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

製造元



〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。